

# 令和8年度学校経営計画

東京都立小平西高等学校長

福田 順子

## I 目指す学校

### 1 スクールミッション

知性と感性に富んだ創造力を育て、自主性と社会性に裏付けられた協調の精神を養い、生命を尊び、健やかな心身を育成します。全ての教育活動において多様な考えに基づいた活動を体験させ、持続可能な社会の形成者としての自律心と国際社会を見据えながら地域連携の視点も大切にしながら、自らの未来を切り拓く確固たる自信を醸成し、学びに向かう姿勢を育成します。

### 2 スクール・ポリシー

#### (1) グラデュエーション・ポリシー

学力と人間力（人間性、社会性）を育むとともに多様な考えを受け入れ、地域社会に貢献し国際社会に通用する人を育てる。

#### (2) アドミッション・ポリシー

将来を見据え、社会を構成する一員としての自覚を持ち、自ら考えることによって課題解決することに粘り強く努力できる人材を求める。

#### (3) カリキュラム・ポリシー

新時代（Society5.0・AIの文明）の要請を受け入れるとともに知・徳・体のバランスを考慮し、生涯にわたって持続的に学ぶことができる教養の土台を身に付ける。

### 3 目指す学校像

(1) 社会の形成者として自律した生活を営む力を育てる学校

(2) 多様性を理解し、他者への尊厳を受け入れることができる人格を育てる学校

(3) 多角的で広い視野を持つグローバルな視点を持ち、国際社会に対応できる人材を育成する学校

	(1)学習指導	(2)進路指導
II 中期的目標と方策	<p>【目標】 生徒が自ら課題を見だし、他者との対話を通して考えを深める力を育成するとともに、継続的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p>【方策】 教科指導力の向上と授業改善を基盤として、育成すべき生徒像を明確に据えた教育課程の編成を進めるとともに、学習データやデジタル技術の活用を視野に入れた授業改善を推進し、学校全体として教科指導内容の質的充実を図る。</p>	<p>【目標】 高い志を育み、自己理解を深めながら、主体的に自己の進路を選択・開拓し、自己実現を図る生徒を育成する。</p> <p>【方策】 3年間を見通したキャリア教育全体計画のもと、継続的な生徒理解に基づく進路指導を推進する。あわせて、学力・進路に関するデータの活用や外部機関・外部人材との連携を生かし、生徒が主体的に進路を選択・決定できる力の育成を通して、希望進路の実現を図る。</p>
III 今年度の取組目標と方策	<p>【目標】 デジタル技術や学習データを活用した対話的・探究的な授業改善を進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、生徒が主体的に学び、深く考える力を育成するとともに、基礎・基本の確かな定着を図る。</p> <p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① デジタル技術と学習データを活用した組織的な授業改善を推進し、生成AI、一人1台端末、デジタル教材、学習クラウドサービス等を効果的に活用することで、生徒が主体的に学びを調整できる学習を実践する。</li> <li>② リアテンド等々の学習データを分析・共有し、単元のねらいや学習過程を明確にした授業改善を進めることで、生徒が知識・技能を活用する主体的・対話的で深い学びの充実を図る。</li> <li>③ 令和8年度教育課程実践検証協力校事業において国語科が採択されたことを踏まえ、CBT方式によるドリルやテスト等の作成・活用を進め、学習の質的向上を図る。</li> <li>④ 次期学習指導要領改正の方向性を踏まえ、生徒を主語とした授業の実現に向けて、単元のねらいや学習過程を明確にし、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、授業改善を進め、生徒が知識・技能を活用する「主体的・対話的で深い学び」の実装を図る。</li> <li>⑤ 教科内外の授業観察や校内研修、校外研修を通して教員相互に学び合うとともに、校外研修の受講を奨励・促進し、継続的な授業改善を図る。また、デジタル技術や探究的な学びを生かした生徒主体の授業実践を推進することで、教員の授業力向上につなげる。(教員相互の授業参観：授業参観シートを用いて年間3回以上実施)</li> <li>⑥ 探究的な学びを重視した授業を通して、課題設定から振り返りまでの学習過程を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。また、【TIPS-Type3】Tokyo-IBLハイスクール指定校としての特色を生かし、大学や企業等と連携した実践的な学習活動を展開することで、課題発見・解決に向かう資質・能力を育成する。</li> <li>⑦ 令和8年度「学力向上推進校」指定校としての特色を生かし、学期中の補習や長期休業中の講習等を計画的に実施することで、生徒一人一人の理解度や学習状況に応じた学習支援を行い、基礎・基本の確かな定着を図る。(1・2年生全員が漢字検定試験を受験。)</li> </ol>	<p>【目標】 入学から卒業までを見通した計画的・組織的な進路指導と系統的なキャリア教育を推進し、進学指導の業務支援業務委託(総合型選抜対策講座)を活用しながら、生徒一人一人が自己理解を深め、多様な進路希望に主体的に向き合い、将来を切り拓く力の育成を図る。また、大学・短期大学進学率60%以上、進路決定率100%を目指し、進路指導の充実を図る。</p> <p>【方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 3年間を見通した計画的・組織的な進路指導体制を構築するため、進路指導計画を整備し、進路指導部を中心に学年・教科が連携した体制を確立する。全教員が共通理解のもとで計画的な進路指導を実施できるようにすることで、生徒一人一人の進路実現を支援し、進路決定率100%の達成を目指す。</li> <li>② 学力・進路データを活用した進路支援の充実を図るため、模試分析会等を通して学力状況や進路意識の把握・共有を行い、外部機関と連携した講習や進学指導の業務支援委託(総合型選抜対策講座)を活用することで、上級学校進学を希望する生徒への支援を充実させる。</li> <li>③ 多様な進路希望に対応した個別進路指導と保護者連携を推進するため、大学・短期大学進学や就職等、それぞれの進路希望や生徒一人一人の状況に応じたきめ細かな個別進路指導を行う。あわせて、三者面談や保護者会等を通して進路情報を丁寧共有し、保護者の理解と協力を得ながら、生徒の進路選択及び進路決定を支援する。</li> <li>④ 教員の進路指導力向上とキャリア教育の充実を図るため、校内研修等を通して教員の進路指導に関する専門性を高めるとともに、計画的・系統的なキャリア教育を推進する。これにより、生徒が将来を見据えて主体的に進路を決定する力や、社会人として必要な基礎的能力の育成を図る。</li> </ol>
IV 今年度の重点目標と方策	<p>○基礎学力向上と学びに向かう力を育てる取組の推進 教育のDXを推進し、デジタル技術や学習データを生かした授業改善を通して、生徒が自ら課題を見だし、対話を通して考えを深めながら学ぶ力を育成する。そのため、主体的・対話的で深い学びを意識した授業設計や探究的な学習過程、補習・講習による個に応じた支援を組織的に進め、確かな学力の定着を図る。</p>	<p>○将来を見据えて進路を切り拓く力の育成 3年間を見通した計画的・組織的な進路指導を通して、生徒が自己理解を深め、自らの将来を主体的に考え、進路を選択・決定できる力を育成する。そのため、学力・進路データを活用した指導や総合型選抜対策講座、保護者との連携を通して、多様な進路希望に応じた支援を行う。</p>

II 中期的目標と方策	(3)生活指導	(4)部活動・特別活動
	<p>【目標】</p> <p>基本的な生活習慣と規範意識の確立を基盤に、生徒が自ら考えて行動し、生命や人権を尊重する態度を身に付けることで、安心・安全な学校生活を主体的に送り、社会の一員として責任ある行動がとれる生徒を育成する。</p> <p>【方策】</p> <p>あらゆる教育活動を通して基本的な生活習慣及び規範意識の定着を図るとともに、生徒理解に基づいた一貫性のある指導体制の下で、生徒の主体性を引き出す生活指導を推進する。</p> <p>人権尊重の視点を大切に、日常の指導や集団活動を通して互いを認め合う態度を育成することで、規律と信頼に支えられた健全な集団づくりを進める。</p>	<p>【目標】</p> <p>生徒会活動や部活動、学校行事等を通して、生徒一人一人が主体的に活動に参加し、仲間と協働しながら課題を乗り越える経験を積むことで、豊かな人間性と社会性を育成する。</p> <p>【方策】</p> <p>学校行事や部活動等が生徒主体の活動となるよう組織的な支援を行うとともに、達成体験や協働的な活動を計画的に位置付けることで、連帯感や達成感を育み、社会性及び責任感の形成を図る。</p>
III 今年度の取組目標と方策	<p>【目標】</p> <p>基本的な生活習慣と規範意識の定着を基盤に、生徒が他者と協働しながら主体的に行動できる力を育成するとともに、生命・人権を尊重する自立した社会人としての基礎的な資質の育成を図る。</p> <p>【方策】</p> <p>① 基本的な生活習慣及び規範意識の確立と自己管理能力の育成を図るため、時間厳守、身だしなみ、挨拶、登下校マナー等の指導を徹底するとともに、全教職員が共通理解のもと一貫した生活指導を行うことで、社会の一員として必要な基本的規律と自己管理能力の定着を図る。</p> <p>② 校則の在り方やスマートフォン等の使用方法、SNS小平西ルールの改訂等について継続的に生徒とともに検討し、生徒が自ら考え判断し、進んで規則を守ろうとする態度を育成することで、主体的な行動と自己管理能力の定着を図る。</p> <p>③ 主体性・協働性及び人権尊重を基盤とした健全な集団づくりを推進するため、日常の教育活動において、生徒が自ら考え判断し、他者と協働しながら行動する場面を意図的に設定する。あわせて、多様性を理解し、互いの人権や尊厳、プライバシー及び個人情報尊重する態度を育成するとともに、思いやりの心と社会性を養い、安心して学校生活を送ることができる健全な集団づくりを進める。</p> <p>④ 安全教育や美化活動を通して、責任ある行動の育成と信頼に基づく生活指導の充実を図る。そのため、関係機関と連携したセーフティー教室（交通安全、薬物乱用防止、情報モラル等）や、美化活動、環境保護、物品管理等に取り組むことで、生徒の安全意識と公共心を高める。あわせて、体罰未然防止に向けた教員研修を実施し、生徒理解と信頼関係に基づく生活指導を徹底する。</p>	<p>【目標】</p> <p>部活動や学校行事等の特別活動を通して、生徒が主体的に活動に参加し、仲間と協働しながら最後までやり抜く経験を重ねることで、社会性、自己肯定感を育成する。</p> <p>【方策】</p> <p>① 生徒主体の企画・運営を通して主体性・創造性の育成を図るため、生徒会活動、学校行事、委員会活動、部活動等において、生徒が主体的に企画・運営に参画できるよう組織的に支援する。その過程において、協働して課題に取り組む経験を重ねることで、人間性、創造性及び主体的にやり抜く力を育成する。</p> <p>② 学習と部活動の両立を支えるため、部活動の質の向上を図る。「部活動ガイドライン」に基づき、活動日・活動時間の適正化と体力向上を進めるとともに、メリハリのある運営を徹底し、十分な学習時間を確保することで、文武両道を目指した部活動の質の向上と生徒の健全な成長を支援する。</p> <p>③ 体験活動や交流を通して社会性及び生命尊重意識の育成を図るため、体験的な活動や社会貢献活動、地域や小・中学生との交流を実施する。これらの取組を通して、社会の一員としての自覚や社会貢献意識を育成するとともに、地域に根ざした開かれた学校づくりを進める。</p> <p>④ 部活動の適正運営と安全・サービス意識の徹底を図るため、部費の適正管理や会計処理の透明化を徹底するとともに、活動計画や運営状況を適切に把握し、健全で持続可能な部活動運営を行う。あわせて、熱中症防止や体罰・ハラスメント防止等の安全対策を周知徹底し、生徒が安心して活動に取り組める環境を整備する。</p>
IV 今年度の重点目標と方策	<p>○日常生活と体験活動を通じた主体性・社会性の育成</p> <p>基本的な生活習慣と規範意識の定着を基盤に、生徒会活動や学校行事、部活動等における実際の体験を通して、他者と協働しながら主体的に行動できる生徒を育成する。そのため、統一した生活指導を徹底するとともに、生徒が考え、判断し、行動する場面を意図的に設定し、達成感や自己肯定感を高める。</p>	<p>○主体的な活動や協働の経験を通じた社会性と豊かな人間性の育成</p> <p>生徒会活動、学校行事、部活動等において、生徒が主体的に企画・運営に関わる機会を確保する。仲間と協力して課題に取り組み、達成感を味わう経験を積み重ねることで、責任感や協働性の育成を図るとともに、安全で持続可能な活動運営を徹底する。</p>

II 中期的目標と方策	(5) 健康・安全	(6) 国際理解教育
	<p>【目標】 心身の健康の保持・増進を基盤に、全教職員が連携した健康・安全教育及び相談・支援体制を整備し、生徒一人一人が安心して学び、健やかに成長できる学習環境の構築を目指す。</p> <p>【方策】 健康づくり・安全指導及び心のケアを重視した教育活動を学校全体で推進するとともに、生徒理解を基盤とした相談・支援体制を整備する。あわせて、いじめ、不登校等の未然防止、早期発見、早期対応に向けて、教育相談体制や関係機関との連携を強化するとともに、特別な支援を要する生徒にも適切に対応できる組織的な支援体制を構築する。心身の不調や困難を早期に把握し継続的な支援につなげることで、誰もが安心して学べる学校環境の実現を図る。</p>	<p>【目標】 国際社会における多様な価値観や文化への理解を深め、互いを尊重し合う態度を育成する取組を通して、グローバル社会で主体的に貢献できる人材の育成を図る。</p> <p>【方策】 体験的な学習や交流活動を基盤とした国際理解教育を推進し、実践的な言語活動や異文化体験を通して、多様性を尊重する態度と国際社会と関わるために必要な基礎的な資質・能力の育成を図る。</p>
III 今年度の取組目標と方策	<p>【目標】 心身の健康の保持・増進を基盤に、全教職員が連携して、相談・支援及び健康・安全・防災に関する教育の取組を組織的・計画的に推進し、生徒一人一人が生命を尊び、安心して学び、健やかに成長できる学習環境の実現を図る。</p> <p>【方策】</p> <p>① 心身の健康の保持・増進を図るため、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を踏まえ、令和8年度「エンジョイスポーツプロジェクト」指定校としての特色を生かし、計画的な体力づくり及び健康づくりを学校全体で組織的に推進するとともに、心の健康にも配慮した教育活動や支援を充実させ、生徒が心身の状態を自ら把握し、健やかに学校生活を送る力の育成を図る。</p> <p>② 外部機関と連携した通級指導の実施や、学校生活支援シート及び個別指導計画の活用を通して、特別な支援を要する生徒への組織的な支援を行い、多様な教育的ニーズに応じた支援の充実を図ることで、誰もが安心して学べるインクルーシブな教育環境の整備を進める。</p> <p>③ 教育相談委員会を定期的に開催するとともに、担任、養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を密にし、生徒の心身の健康に関する情報を学校全体で共有するとともに、全教職員で組織的に、いじめや不登校・中途退学等の未然防止、早期発見、早期対応に取り組み、生命尊重及びSOSの出し方に関する教育を充実させる。これにより、生徒が安心して支援を求められる環境を整え、健全な成長を教職員全員で支える。</p> <p>④ 安全・防災指導及び危機管理体制の充実を図るため、学校安全計画に基づき、交通安全指導やセーフティー教室、防災教育及び避難訓練を計画的に実施する。あわせて、防災教育推進委員会を年2回開催し、地域や外部機関と連携した実践的な防災訓練を行い、自助・共助・公助の精神を育み、生命を大切にす心や他者を思いやる態度を養う。また、緊急時の連絡方法や対応手順を全校で確認し、組織的な危機管理体制の強化と危機対応力の向上を図る。</p>	<p>【目標】 国際理解教育を通して、多様な文化や価値観への理解を深め、互いを尊重する態度と英語による実践的なコミュニケーション力を身に付け、グローバル社会で主体的に行動し貢献できる生徒を育成する。</p> <p>【方策】</p> <p>① 体験型学習を通じた異文化理解の促進を図るため、TGG等の体験型学習施設や都教育委員会が実施する国際理解に関する事業を積極的に活用し、異文化体験や交流活動を通して、多様な文化や価値観への理解を深めるとともに、生徒の国際的な視野を広げる学習機会の充実を図る。</p> <p>② 英語による実践的コミュニケーション力の育成を図るため、ALT・JETとの協働による授業を充実させ、英語を英語で学ぶ環境を整えるとともに、体験的な学習と関連付けながら、聞く・話す・読む・書くの4技能を総合的に育成する。(1年生全員が1月以降に実用英語技能検定を受験。)</p> <p>③ 多様性尊重を核とした特色ある国際理解教育の展開を図るため、国際理解教育を通して文化や価値観の違いを認め合い、他者を尊重する態度を育成する。あわせて、体験活動や交流活動で得られた学びや成果を生かし、本校の特色ある取組として、国際理解教育を継続的に発展させる。</p>
	IV 今年度の重点目標と方策	<p>○心身の健康を大切にし、安心して学校生活を送る力を身に付けた生徒を育成する。</p> <p>健康・安全に関する教育活動を学校全体で計画的に推進し、生徒が自らの心身の状態に関心をもつ態度を育成する。あわせて、相談・支援体制の充実を図り、いじめや不登校等の未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組む。</p>

II 中期の目標と方策	(7) 募集活動・広報活動	(8) 学校経営・組織体制
	<p>【目標】 本校の情報発信体制を更に充実させ、広報活動を組織的・計画的に展開することで、受験生・保護者・地域に対して本校の魅力を分かりやすく伝え、学校選択につながる持続的な広報活動の基盤を確立する。</p> <p>【方策】 デジタルを活用した組織的・計画的な情報発信体制を整備し、本校の特色ある教育活動を分かりやすく伝えるとともに、対面による広報活動と効果的に連動させる仕組みを構築することで、学校理解の促進と学校選択につながる広報活動の充実を図る。</p>	<p>【目標】 全教職員が連携し、分掌等が組織的に機能する体制と企画調整力を高め、特色ある教育活動と学校経営計画の着実な実現を図るとともに、働き方改革を推進し、ライフ・ワーク・バランスを重視した持続可能な学校経営を目指す。</p> <p>【方策】 ミドルリーダーを中心とした組織体制のもと、企画調整力と部門間連携を強化し、校務DX等による業務の効率化と情報共有の充実を進めることで、全教職員が参画する持続可能な学校経営を推進する。</p>
III 今年度の取組目標と方策	<p>【目標】 デジタルを活用した組織的・計画的な広報活動と対面による広報活動を連動させ、本校の教育内容や生徒の姿を分かりやすく発信することで、受験生・保護者・地域の理解を深め、学校選択及び入選倍率の向上につなげる。</p> <p>【方策】</p> <p>① デジタルを活用した情報発信体制の強化を図るため、学校PR動画の更新や教育活動の実践・成果に関する情報を、学校ホームページを活用して年間300回以上更新するなど、継続的かつ計画的に発信する。あわせて、SNS等の活用を検討し、学校生活や行事の様子をタイムリーに伝えることで、本校の魅力を効果的に発信する。</p> <p>② 学校見学会・学校説明会等の対面による広報活動の充実を図るため、学校見学会や学校説明会、校外説明会等を教職員全員で組織的に実施するとともに、在校生や教職員による中学校・学習塾訪問を行い、直接対面で本校の教育方針や特色、生徒の実態を丁寧に伝えることで、学校理解の促進を図る。また、学校行事に近隣の方々や小・中学生を招待し、本校の教育活動や生徒の様子を公開することで、地域に開かれた学校づくりを進め、広報活動の一層の充実につなげる。</p> <p>③ デジタルと対面を連動させた募集活動の組織的推進を図るため、広報担当を中心に年間計画を策定し、デジタル広報と対面広報を効果的に連動させた募集活動を展開する。あわせて、校内での情報共有と役割分担を明確にすることで広報の質と効果を高め、安定した入選倍率の確保を目指す。</p>	<p>【目標】 分掌や教科を担うミドルリーダーを核とした組織体制のもと、企画調整力と部門間連携を高め、業務の効率化と組織的な情報発信を推進することで、特色ある教育活動を着実に展開し、ライフ・ワーク・バランスを重視した持続可能な学校経営を実現する。</p> <p>【方策】</p> <p>① ミドルリーダーを核とした組織体制の強化と経営参画を推進するため、各分掌主任・教科主任を中心に分掌間の連携を強化し、円滑な連絡・報告・相談を徹底する。あわせて、企画調整会議を学校経営の中核に位置付け、課題の可視化と迅速な意思決定を通して、学校経営計画の着実な実行を図る。</p> <p>② 教職員の資質・能力の向上を図るため、計画的な人材育成や外部研修の活用を通して専門性を高めるとともに、校務DXを推進し、校務の効率化と教育活動の質の向上を図る。これにより、教職員一人一人がその力を十分に発揮できる教育体制を整え、組織としての教育力の向上を目指す。</p> <p>③ 生徒の実態や各教科の状況を踏まえ、教育課程や人員配置、学習環境の在り方を総合的に検討し、教育環境の最適化を図る。あわせて、図書館を放課後の自習スペースとして活用するなど、学習環境の整備を進め、より効果的な教育環境の構築を図る。</p> <p>④ コンプライアンス意識の向上と服務規律の徹底を図るため、体罰や服務事故、学校事故等の未然防止に組織的に取り組むとともに、服務事故を0（ゼロ）とする明確な目標のもと、教育公務員としての自覚と責任に基づく職務遂行を徹底し、地域社会から信頼される学校づくりを推進する。 あわせて、校務・業務の見直しと効率化により業務の偏りを解消し、教職員が互いに支え合う協力体制のもと、ライフ・ワーク・バランスを重視した学校経営を推進する。</p> <p>⑤ 開かれた学校づくりの推進を図るため、学校行事や学校開放事業等を通して地域とのつながりを深めるとともに、本校の教育活動について組織的・計画的な情報発信を行い、理解と信頼の向上を図る。</p>
	IV 今年度の重点目標と方策	<p>○戦略的な広報活動の積極的な展開 デジタルを活用した広報活動を積極的に展開し、本校の教育活動や生徒の姿を的確に発信し、学校理解の促進と学校選択につなげる。さらに、学校見学会や学校説明会、中学校及び学習塾訪問を組織的に推進し、学校PRを一層充実させ、入選倍率の増加を目指す。</p>

IV 数値目標				
目標項目		令和8年度 目標値	実績値	
			令和7年度	令和6年度
①	I C Tを活用しグループ学習を取り入れ、主体的な学びであると回答した生徒の割合	80%以上	86.8%	86.6%
②	講習や補習の充実度（生徒）	80%以上	81.1%	79.4%
③	資格取得人数			
	実用英語検定準2級以上合格者	40名以上	43名	42名
	漢字検定準2級以上合格者	10名以上	7名	22名
④	自習室（図書館）利用者数	1,000名以上	1,200名	1,306名
⑤	進路指導満足度（生徒）	85%以上	89.0%	87.4%
⑥	進路決定率	98.0%	96.5%	97.2%
	大学・短大合格者数	130名以上	143名	145名
	日東駒専レベル以上大学合格者数	10名以上	6名	16名
⑦	学校行事満足度（生徒）	80%以上	90.0%	91.1%
⑧	部活動加入率	70%以上	72.2%	70.8%
⑨	学校ホームページ更新回数	300回以上	391回	144回
⑩	中進対第1志望の倍率	1.10倍以上	1.06倍	1.08倍
⑪	推薦入試の応募倍率	2.50倍以上	2.57倍	2.89倍
⑫	一般入試（学力一次）の応募倍率	1.20倍以上	1.15倍	1.20倍
⑬	学校見学会・学校説明会等の参加者数	2,000名以上	2,229名	2,365名
⑭	学校生活の充実度（生徒）	80%以上	88.7%	89.5%
⑮	勤務時間外の在校時間が月45時間を超える延べ人数	150名	223名	156名